

第 2 1 2 号

連携室だより



公益財団法人
北海道医療団

帯広第一病院

帯広第一病院理念・基本方針

【理念】

地域に信頼される病院を目指し、質の高い、思いやりのある医療サービスを提供する。

【基本方針】

- 1 患者の皆様の安全と権利を守ります。
- 2 地域医療機関との連携を推進します。
- 3 救急医療の充実に努めます。
- 4 研修や教育を積極的に行います。
- 5 働きがいのある職場を作ります。



医局カンファレンスの様子

今号の内容

- ・退職医師よりご挨拶 / 認知症ケアチームのご紹介 専任看護師 大和谷 奈都美 (2)
- ・臨床倫理コンサルテーションチーム (Clinical Ethics Consultation Team : CECT) の立ち上げの背景と今後の展開
がん看護相談支援室 室長 がん看護専門看護師 上級臨床倫理認定士 小里 裕美 (3)
- ・令和4年度地域医療連携室実績報告 地域医療連携室長 下川原 一彦 (4)

退職医師よりご挨拶



～9月末をもって退職となる医師よりご挨拶いたします～



総合診療科 部長
緩和ケア科 科長

吉田 弘

大学では放射線治療及び化学療法、その後は地域医療を行ってききましたが、医療者側が提供するサービスに対して患者さんやご家族が必ずしも満足していない、ということを感じてきました。患者さんの側に立った医療を志し、「五十の手習い」で緩和ケア医として2020年4月から当院に勤務させていただきました。

性格に致命的な欠点がある私を、加藤前病棟師長や数田MSW（退職）など心優しい人々が一所懸命にサポートしてくださいました。お世辞ではなく、今までで最高のスタッフに恵まれて仕事ができただけに心から感謝しています。各科ドクター、病棟、外来、医療連携室、医局秘書さん、受付、医事、ワタキューの清掃員の方々、守衛さん、本当に多くの方々にお世話になりました。緩和ケア科は今後、高田新師長を中心にスタッフ一丸となって難局を乗り越えていただけるものと確信しています。

暫くの間は非常勤医師として、隔週で緩和ケア外来・病棟勤務を続ける予定です。新規常勤医師が就任されるまでの間、皆様には大変ご迷惑をお掛けしますがどうかご容赦願います。

病院からのコメント

今後は井伊副院長を中心に緩和ケア外来・病棟を運用します。なお吉田先生（非常勤医師）は、10月より令和6年3月まで隔週月曜日（午後）～木曜日にて緩和ケア外来・病棟で勤務されます。引き続き当院の緩和ケア外来・病棟をご利用いただけますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

認知症ケアチームのご紹介

専任看護師 大和谷 奈都美

2025年、65歳以上の5人に1人は認知症にという社会情勢の中、各医療機関の皆様におかれましても患者様の認知機能を把握し、治療方針や服薬管理の検討を行う必要性が高まっていると感じられていると思います。

当院におきましても患者様が不安や混乱に至らず、穏やかに安心して治療・入院生活を過ごして頂くことができるよう、7月より認知症ケアチームを立ち上げ活動を開始いたしました。

認知症ケアチームは、認知症や認知機能の低下している方（認知症の有無に関わらず）のケアに加え、70歳以上に発症リスクが高まるせん妄の予防または発症後の早期離脱へのケアについて、患者様の治療にあたる医師・看護師等病院職員に対し、助言・ケア支援、相談対応をさせていただいております。

各医療機関の皆様から、当院へご高齢の患者様の加療を安心してご紹介いただける、その一助となるべく活動を展開して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



臨床倫理コンサルテーションチーム (Clinical Ethics Consultation Team : CECT) の立ち上げの背景と今後の展開

がん看護相談支援室 室長
がん看護専門看護師 上級臨床倫理認定士 小里 裕美



背景

我が国は、超高齢多死社会を迎え、国民の医療に対する意識は安全・安心の重視と共に、量から質の向上をより重視する方向へ大きく転換しています。また、医療者は本人の意思を尊重しQOLを重視する認識を持っていても、本人にとって最善の医療・ケアの方向性を決定するには様々な倫理的ジレンマが生じると言えます。このような意思決定の現場に携わる医療者は、日々重い責任を感じながら医療・ケアを提供しているのが現状です。

- * 医師 : 1名
- * 看護師 : 3名
- * MSW : 1名
- * 事務職員 : 1名

※ 日本臨床倫理学会認定「上級臨床倫理認定士（上級臨床倫理アドバイザー）」が在籍しています。



目的と役割

当院では、本人やご家族・医療者が直面した倫理的課題解決のために、可能な限り早急に医療チームと多職種で構成されたCECTが倫理カンファレンスを開催した上で最善の方向性を導くことができるよう医療者への提案やサポートすることによって、より質の高い医療・ケアの実現を目的として「臨床倫理コンサルテーションチーム (CECT)」を立ち上げました。

CECTは、本人の意思を十分に尊重し、尊厳ある生き方を実現できるよう、臨床倫理相談フローや活動結果報告書の作成、法人全体で臨床倫理研修の開催、チーム内で勉強会を開催しブラッシュアップする機会の提供、倫理カンファレンス内容は職員誰もが閲覧できるよう電子カルテ内に展開する等に取り組んでいます。今後は活動を拡大し、院内だけでなく十勝地域の医療機関や介護施設で抱えている倫理的課題解決に取り組む予定です。

主な活動内容

- * 治療や療養の場の意思決定を含め、患者本人や家族間での意向の相違
- * 治療やケアの方向性に関して医療チーム内での意見の相違
- * Advance Care Planning (ACP) について
- * 患者本人の意思決定能力の判断
- * 患者本人や家族が適応のない治療を望む場合
- * 医学的に重要と考えられる治療を患者本人が拒否する場合の対応
- * 人工呼吸器による呼吸補助、人工栄養、人工透析などの治療の差し控えあるいは中止の判断
- * 心肺蘇生術を実施するかどうかの判断
- * 耐え難い苦痛に対する鎮静開始の妥当性
- * 身寄りのない方への対応
- * 身体抑制の妥当性
- * 急変時の対応 等々

令和4年度地域医療連携室実績報告

地域医療連携室長 下川原 一彦

地域の先生方、関係機関の皆様には日頃より大変お世話になっており、また多くの患者様をご紹介いただき、誠にありがとうございます。早速ですが、以下のとおり昨年度の地域医療連携室実績をご報告させていただきます。

表1



1「紹介件数」

当院への紹介状況の推移を示したものが、表1となります。平成29年度からの推移となりますが、令和4年度は2,538件と、院内クラスターが大きく影響した令和3年度より回復はしてきたものの、依然として下回っております。現在当院では特に消化器領域に力を入れており、4月に赴任となりました土屋朗之先生(肝胆膵外科高度技能専門医)を中心とした肝胆膵外科の高難度手術にも対応できる体制を整えておりますので、お困りの症例など御座いましたら是非ご紹介をお願いいたします。

表2



2「逆紹介件数」

表2は逆紹介患者数の推移となります。青色のグラフが紹介元の先生へお戻した件数、オレンジ色のグラフが専門医への紹介となります。逆紹介件数も紹介件数同様、例年より大きく減少しました。当院では患者様の病状安定後は、紹介元の先生の所で御加療頂ける事を原則として対応しておりますが、病状的に難しい場合には、転院先、施設入所等の相談をさせて頂いております。

表3



3「紹介に伴う入院及び外来件数」

表3は紹介患者様の入院・外来の割合を示しています。昨年度入院に繋がった方は864件で全体の紹介件数の34.0%と、例年と比べても大幅減となっております。こちらもコロナ禍での入院制限などが影響した結果だと考えられますが、今年5月からは新型コロナウイルスが5類感染症に移行となった事で、今年度はこれまで以上にスムーズな受診・検査予約に努めてまいりますので、引き続き当院地域医療連携室をご利用いただけますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

発行 公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院 地域医療連携室
 〒080-0014 帯広市西4条南15丁目17番地3
 TEL 0155-25-3121 (病院代表) / 0120-558-091 (連携室直通)
 FAX 0155-27-0248 (連携室専用) e-mail renkei@zhi.or.jp

